

芹沢文学読書会

案内通信

No. 147

2020年12月24日(木)

(令和2年)

12月便り — 新型のコロナウイルスで年が暮れ… 松林庵主人 —

日本では新型コロナウイルスの流行が第3派となり、心配されます。大分県でも感染者が段々と増えています。外国ではワクチンの予防接種が始まっていて、日本でも間もなく接種が始められることと思います。急がないと、東京五輪(オリンピック)が始められません。十分に準備しウイルス対策も万全にして、悲願の五輪をやり遂げたいものです。

日本海側や東北・北海道では、湿った大雪が降り、記録的な積雪に苦しんでいます。大分県でも初雪となりましたが、年末年始に、また積雪が心配されます。

ウイルスの感染が止まりませんが、大分県立図書館は開館されていて、研修室も使えます。新しい年・令和3(2021)年になりますが、1月の例会は以下のように行われます。体調に留意し、都合をつけて御参加下さい。恒例でやって来た「新年会」は自粛して中止することにします。マスクを付けて、御参加下さい。最近、御無沙汰の方も、気楽に御参加下さい。新会員も歓迎します。

第147回・芹沢文学読書会

- ①日時: 1月10日(日) 午前10時~12時 [*原則的には奇数月の第2日曜日午前]
②会場: 大分県立図書館 研修室 No.5 [*会場/通常は研修室No.5です]
③内容: [I] 芹沢文学に関する話題や情報 10:00~10:15 am 自由に話す。

[II] 芹沢文学読書会 10:15~12:00 am 司会担当 小串 信正

○テキスト 随筆①「三人の天皇を送った」 随筆②「『大自然の唯一の神』に支えられ」

- ①随筆は、昭和天皇が1月7日に崩御され、明治天皇、大正天皇のことを回想。
②随筆は、フランス留学中に結核に倒れ共に闘病したジャックなど三人のことを回想。
初出/①は平成元年3月25日の中日新聞に発表された随筆です。②は平成元年10月9日の朝日新聞に発表された随筆。連作『人間の意思』を創作している93歳の作。
再録/『芹沢光治良文学館12』(平成9年8月10日 新潮社発行)に収録。536~541頁。

=次回は、令和3(2021)年3月14日(日)午前の予定です。=

◎同封資料; ①評論「日本文化研究国際会議の準備までの話」芹沢光治良 雑誌<學鏡>第六十九巻 第十号 昭和47(1972)年10月5日丸善株式会社発行。4~7頁 [資料提供 中村輝子] ②案内チラシ「企画展 光治良と沼中・東高 第2回」沼津市芹沢光治良記念館作成 令和3(2021)年1月5日~5月30日 [資料提供 芹沢光治良記念館] *①は、日本ペンクラブ会長として国際会議を開催するまでの経過を書いたものです。②は、沼津市芹沢光治良記念館の企画展(第2回)の案内チラシです。記念館から送られて来ましたので同封します。

芹沢文学・大分友の会



連絡先: 〒872-1651 大分県国東市国東町浜 4765(番地) 小串信正

☎ FAX 0978(77)0565 郵便振替口座 01970-5-16072/芹沢文学・大分友の会

☆ **第146回・芹沢文学読書会の報告** 於 大分県立図書館・研修室No.5 ♪♪♪♪

第146回の芹沢文学読書会が、11月15日(日)に大分県立図書館の研修室No.4で行われました。新型コロナウイルス対策をしての例会の継続でした。小倉の金さんと中津の呉さんが参加してくれて、久しぶりに活気のある読書会となりました。大河小説『人間の運命』の韓国語訳のことも話題となりました。新潮社版の『人間の運命』(全14巻)の翻訳出版で、第1巻『父と子』が出版されて、大いに期待したのですが、どうしてか、第2巻『友情』が全く別の装幀で刊行されたのです。心配していたら、その後に第3巻以後が中断されたままです。この出版社がどうなっているかも不明です。金さんに調べて欲しいと依頼しました。全14巻ですが、既に全部翻訳されているとも聞いたことがあります。同出版社か、別の出版社でもいいですが、第3巻以後が出版され、前2巻も同じ装幀にして、新潮社版の『人間の運命』(全14巻)の翻訳として完結してほしいものです…。

今回のテキストは『芹沢光治良文学館12』の随筆「富士山はわがいのちの恩人」と「物言わぬ神の意思に言葉を」を読み語りました。次回も随筆二作を読みたいと思います。

新しい年で1月の読書会ですから、恒例として「新年会」を行って来ましたが、新型コロナウイルスの第3派の流行のために、自粛して中止します。読書会へは都合をつけて御参加下さい。マスクやアルコール消毒で、新型コロナウイルス対策は十分にしましょう。

○未納の方、令和元(2020)年度の年会費の納入をお願いします。 ☺ ➔ ☘ ☆

令和2年度の年会費が未納の方は納入をお願いいたします。 篤志者の寄付により今年度の年会費も1200円に止めていますので、納入をお願いいたします。同封の郵便振替の払込取扱票にて納入して下さい。 寄付も受入れますが、無理をされないように。

*どうしても退会されます方は、ハガキ等にて御一報下さい。

【芹沢文学案内 No. 94】 **芹沢光治良と日本ペンクラブ** ♥ ◆ ♣ ♠

日本ペンクラブは、戦前の昭和10年に島崎藤村を会長にして始められました。発会に参加した芹沢光治良は、経済学の研究者であったことから、島崎藤村会長から会計主任を依頼されました。昭和26(1951)年のスイスのローザンヌの世界ペン大会に日本代表として参加しました。その後に副会長を務めていましたが、昭和32(1957)年9月の第29回世界ペン東京大会を川端康成会長と共に開催に尽力しました。昭和34年3月6日の朝日新聞に「日本ペンクラブのこと」を書き、7月の西独フランクフルトでの第30回世界ペン大会に名誉会員として招待されました。7月29日の朝日新聞に「国際ペン大会に出席して」を発表し、8月13～15日の東京新聞に「ペン大会のあと」を連載。昭和40(1965)年10月1日に前川端康成会長の推薦で日本ペンクラブ会長に選ばれました。昭和42年3月31日発行の『日本ペンクラブ三十年史』に「まえがき」を執筆。昭和44(1969)年2月にスウェーデン・アカデミーからノーベル文学賞の推薦委員に選ばれました。昭和46年9月の第38回国際ペン(ダブリン)大会で日本ペンクラブの推薦で国際会長に立候補しましたが、選ばれませんでした。昭和47(1972)年11月に「日本文化研究国際会議」を開催しました。昭和49(1974)年10月に日本ペンクラブ会長を辞任しました。この尽力は評価されるべきです。